

「さわやか西中 誰からも愛され、応援される生徒を目指して」

平成27年度 柳津町立西山中学校

学校だより

平成28年3月31日(木)発行 第 48 号

お世話になりました

転出のご挨拶

平成27年度末人事異動で、本校から5名の教職員が転出します。保護者の皆様には大変お世話になりました。本校で培った力を、新任地でも発揮してくれるものと思います。今後ともご指導、ご鞭撻お願いいたします。

「夢が叶う西山」

木島 克典

(福島市立北信中学校へ)

西山中に赴任してまず驚いたことは、生徒全員がバドミントン部にも陸上部にも所属し、それぞれの練習に励んでいることでした。やがて月日を重ねるうちに、部活動だけでなく、何事にも1人何役もこなしながらがんばっている西山中生の姿が見えてきました。そして、それらの活動の中で、いろいろな形で1人ひとりが「キラッ」とした輝きを見せています。生徒のみなさんに見れば、いろいろなことをやらなくてはいけないことは大変かもしれませんが、このことは、自分の適性や可能性が発掘・発展されるチャンスに恵まれているとも言えます。さらに、西山では、保護者の方々や地域の方々も、中学生を地域をあげて応援してくれます。それによって、さらに自信をつけ、持てる力が高められます。自分自身のかねてからの念願であった作品展が西山中の在任中に実現したことも、やはり西山の地域の人々の応援に後押しされたからこそと言えます。

そう考えると、ここ西山では、自分のやりたいことを見定めることができ、そのことを続けていけば、それらを実現できる可能性が大きいと言えます。「良い環境」とは、近くにコンビニがあったり、塾があったりなどの便利さよりも「地域の人」であることをこの2年間で考えさせられました。子どもを育てるならぜひ西山で！これからの世代の人々にアピールしていきたいと思います。



「西山での3年間」

渡部 典男

(柳津町立柳津中学校へ)

今から28年前に講師として、この西山中の寄宿舎補正として教員の始まりの地がこの西山でした。それから26年ぶりに教師としてまたこの西山に来るとは思っても見ませんでした。その当時間も保護者の方々や地域の人たちの温かさや生徒の純粋で一生懸命さは変わらずに西山の伝統として引き継がれていました。26年ぶりに着任しても何の違和感もなく生徒も保護者の方々もとても親切に迎え入れてくれたこと事はとてもうれしく思いました。様々な学校行事に積極的に協力してくれる保護者の方々には頭の下がる思いでいっぱいです。また、生徒の皆さんも素直に協力してくれて積極的に活動する姿はさすが西中生と感心させられることばかりでした。ご家庭と地域が連携することで、生徒もよりよい方向へ導くことができている地域だと感心させられました。この西山では毎日がとても楽しくあつという間の3年間で過ぎてしまったような気がします。

私の教員年数も残り3年となり、自分なりに西山中学校で学んだことを糧として柳津中で自分なりの行動を起こし、統合に向けてした下地作りをしておきたいと思います。各種大会で会うこともたくさんあると思いますのでそのときには声をかけてもらおうと思います。

保護者の皆さん、生徒の皆さん、そして先生方、本当にありがとうございました。3年間お世話になりました。



「西山での一年」

佐藤 友美
(会津若松市立門田小学校へ)

西山に初めて来た日、私の不安はいっぱいになりました。初めての職場、初めての中学校、大丈夫かな…と不安に思っていたことに加え、峠を越える通勤路、想像を越える雪。つい、先日のこのように覚えています。



春。生徒の皆さんと最初に行った活動は、部活動と入学式の準備でした。「上手になりたい…」「入学生のために…」と一生懸命に活動する姿は、新年度の「希望」という温かな春の太陽の光をまっすぐ見つめているようでした。

夏。夏休みも学校に来て部活動に励み、先を走っていく生徒の皆さん、ついて行けずおいていかれる私。毎日のように顔を合わせていた皆さんは、いつの間にか少し大きくなっていました。2学期の始業式、久しぶりに見た制服姿の皆さんは、日に焼けて少しだけ大人になったようでした。

秋。16名の生徒と教職員、保護者の方々、全員で作りに上げた文化祭でした。「パズル～その1ピースがないと完成しない～」のテーマのとおり、一人一人が1ピースになって完成させたものでした。そこにいた、全ての人の顔がきらきらと輝いていました。西山の宝を見ることができました。

冬。雪は少なく、春に見た景色とは違う西山の冬でした。厳しい冬を知っている生徒の皆さんは、どんな時もとともたくましく見えました。魅力発掘コンテストの堂々とした発表。今も、これからも、この場所を大切に思う温かい気持ちが届いてきました。

どんな時も、西山は温かい場所でした。

そして、別れの春。悲しい気持ちもありますが、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

「感謝」

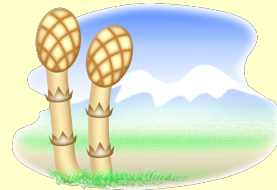
藁谷久美子
(昭和村立昭和中学校へ)

一年前の3月に西山中を下見に訪れたことが、つい先日のように感じています。その時、町民バスの停留所からは雪の壁が視界を遮っており、中学校の2階部分がかすかに見えただけでした。そのまま私は雪の多さに圧倒され、これからの西山勤務の不安を抱えて、すぐ若松へ引き返したのです。そして今、春の西山をもう一度経験できずにこの場所を去ることをとても悲しく思っています。



さて、西山中が掲げる目標に「行ってよかった、行かせてよかった、勤めてよかった」「誰からも愛され、応援される生徒」というのがあります。これは年を重ねてもそうありたい、と思う目標であると思います。これから先の人生もこの言葉を忘れずに、励んでいきたいと思っています。

最後に、西山の地域の皆さんの学校を大事に思う気持ちの中で育つ子どもたちの健やかな姿は、毎日仕事をする中で、私の大事な癒しになっていました。一年間無事に仕事に励めたのは皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。



「西山の思い出」

藤谷 友恵
(退職 仁愛看護福祉専門学校に入学)

去年6月に着任してはや10ヶ月、あっという間に今日を迎えた気がします。振り返ると、朝、生徒の皆さんが気持ちよく挨拶してくれたのが印象的です。初めての学校勤務で不安もありましたが、皆さんの元気さ、明るさに励まされました。今日はどんな日かなと考えながら、緑美しい木々を通り抜け、深い青色の川沿いを車走らせ、学校へ向かうのがとても楽しかったです。



思えば、何でも無い日の何気ない会話、それらすべてが大切な宝物でした。もっと色々な話を話したかった、もっと一緒に居たかったです。皆さんに伝えたいことは、今この瞬間、自分しかできないことを大切にしてほしいです。授業を受けるのも、部活も、家庭でも、お友達のこと。意識するだけで毎日の暮らしが変わってくると思います。

短い期間ではありましたが、在職中は大変お世話になりました。地域や保護者の皆様、先生方から温かくして頂き、とても幸せで充実した日々を過ごすことができました。本当にありがとうございました。生徒皆さんの身体とともに、心が健やかに成長していくよう祈っています。